

2021

June

284号



はるあじらい

●医療法人創和会広報誌はあむにい / 発行 医療法人創和会 理事長 重井文博
令和3年6月1日発行

創和会創立63周年を迎えて

理事長 重井 文博



この1年、新型コロナウイルスへの対応では、院内外での感染対策を徹底したうえで発熱外来や陽性透析患者とポストコロナ転院の受入れ、またワクチン接種業務を担うことができました。私が医師になって40年ほどの間で今ほど、すべての国民からの医療、医療者への注目が危機感と期待を持って高まっていることはありません。

見義不爲、無勇也

義を見てせざるは勇無きなり

If you see what is right and fail to act on it, you lack courage

今こそ、私たち医療人が心を合わせ、高い志を胸に、ミッションを果たしていくべき時です。これまでの、皆さんの奮闘に心より感謝するとともに、さらなるパッションそしてアクション。引き続きの奮闘を期待します。

本年8月21日(土)・22日(日)に、コロナで1年延期した「全日本病院学会 in 岡山」の開催が予定されています。創和会からは実に、56題発表の申し込みがあり、締め切った一般演題の中の約一割。実行委員長を仰せつかっている私としては、大変誇らしく、この場を借りて感謝いたします。現地会場とWEB(LIVEとオンデマンド併用)での開催を予定しており、講演者ばかりでなく多くの皆さんが参加申し込みをよろしく。56人の待、我らが発表者を創和会の皆で応援しよう。

創和会の理念、「生きることの尊さと健康であることの幸せを、すべての人と共に」を不変の旗印として大いなる未来を描き、活気ある明るい病院を目指して、皆さんのなお一層の理解と協力をお願いします。

創和会の創立より63周年を迎えました。63年の歴史は、全職員皆さんの並々ならぬ努力と協力の賜物であり心より感謝します。創和会ができたのは私が3歳の時。この写真は、創和会になる前、重井内科のころのもの。父の往診用スクーターに勝手に乗って遊んでいたら怒られた記憶が、不思議なもので今も残っています。



永年勤続者表彰

しげい病院



20年表彰

齊藤 紀子
藤田 真紀
井上 朱美
近土 亜矢
東藤 久美子
柴田 早苗
林 昌子
秋山 恭子
今西 仁美

10年表彰

藤岡 時江
藤岡 保彦
安藤 泰宏
浅沼 典子
中尾 敦子
渡邊 美幸
中村 啓子
川相 美穂
土江 真由美
石原 千春
井山 由有
南 俊也
吉田 圭佑
糸島 佳那恵
小玉 真貴子
武田 裕香
小野 由美
青木 賢司
若木 琢哉
作谷 友香
本多 雅亮

謝辞

永年勤続表彰者 30 名を代表して、一言ご挨拶を申し上げます。

記念すべき病院の日・しげい病院創立記念の日に、永年勤続表彰を受賞することができましたことに、受賞者一同感謝の気持ちでいっぱいです。10年・20年と長きにわたり、無事に勤務することができ、この日を迎えられたのは理事長・院長はじめ諸先生、先輩、同僚、多くの皆さま方のご指導・ご協力そして励ましがあったからこそと深く感じております。改めまして御礼申し上げます。

身の引き締まる気持ちで辞令を受けた日からの 20 年間で振り返りますと、今ではその一つひとつが良き思い出であり、また貴重な経験もさせていただきました。過ぎてみれば、この 20 年間で一瞬のような気もいたします。

私自身においても結婚・出産・子育てと私生活でも様々な出来事がありましたが、働きやすい環境や上司・同僚に恵まれたことまた家族の協力・応援のおかげで仕事を続けることができたことに感謝しております。

しげい病院におかれましては、設立理念を念頭に地域の皆さまとの絆を大切に、時代の流れに沿った「地域が求める役割」に応えるべく、様々な取り組みや活動をしてきました。

その中でも西日本豪雨災害後に透析患者の受け入れを即座に開始したことが強く印象に残っています。地域で「今」何が求められているのかに応え、取り組むしげい病院の一員であることに誇りを感じたことが思い出されます。

また昨今では、新型コロナウイルスの急速な感染拡大により医療が危機的状況となりつつあります。全国の医療機関で懸命に対応が続けられており、しげい病院でも昨年、病床編成が行われ患者受け入れを始めました。新型コロナウイルス感染の収束は見通しが立たない状況ですが、「地域の皆さまにとって必要な医療が何か」を考えながら「生きることの尊さと健康であることの幸せを、すべての人と共に」との創和会の理念とともに安全で質の高い地域医療に貢献できる職員としてより一層精進する所存でございます。

今後とも引き続き皆さまよりご指導、ご鞭撻をいただきますようお願いするとともに、しげい病院の益々の発展を祈念して、御礼の言葉とさせていただきます。

本日は、誠にありがとうございました。

令和3年5月12日 永年勤続者代表 藤田 真紀



▲謝辞



▲表彰状・記念品授与

30年表彰

小原 典子
長尾 雅子
松本 浩一
田中 昭彦

20年表彰

千田 京子
合田 ゆう子
松崎 敬代
川北 奈美
牧野 温子
岡 優子
宮地 美喜子
太田 薫

10年表彰

藤井 絢子
中井 康太
藤野 理加
由比濱 恒明
藤本 さおり
尾崎 善子
三好 聖子
石井 健太郎
栗井 宣圭
井並 宏樹
妹尾 梨沙
槌田 愛美
西田 真理子
廣坂 大介
河島 弘子
二階堂 恵
今村 昌司

謝辞

永年勤続表彰者 29 名を代表して、一言ご挨拶を申し上げます。

吹き渡る風が青葉の香りを運んで来る季節となりました。本日、創和会創立記念日であるこの佳き日に、私どものために表彰式を挙げていただき、心よりお礼を申し上げます。

今まで大過なく勤めさせていただきただけでしたのは、重井理事長をはじめ、いつも温かく教え導いて下さった上司や先輩方、同僚・後輩の支えがあり、これまで看護師を続けることができたのだと心から感謝申し上げます。

私自身のことを振り返りますと、30年の歳月は長いようであり、一瞬で駆け抜けたような感じです。私は、平成 2 年に就職し、小児科・内科混合の 4 階病棟に配属になりました。まだまだ未熟な私が、受け持ち患者さんのシャント手術に立ち会った時、自分も緊張する中で、患者さんの不安を和らげようと声を掛けながら手を握ったり、体を擦ったことや、その患者さんから「手術の時、そばにいてくれて安心したよ」と声をかけていただき、とても嬉しかったことを今でも鮮明に覚えています。

外来では、平成 15 年より糖尿病患者さんの透析予防として、医師をはじめ、看護師・管理栄養士と協働し、チームで患者さんの療養指導に関わらせていただきました。また、糖尿病患者会では、患者さん同士の体験談や悩みなどをお互いに交換しながら療養生活を励まし合ったこと、春は桜・秋は紅葉を觀賞しながら患者さんやご家族と共にウォーキングで汗を流したことはとても貴重な体験でした。

地域連携では、平成 28 年より急性期病院との顔の見える関係づくりで、岡山大学病院の周術期管理センターと「看－看連携」を開始しました。当院からは地域連携・看護師・薬剤師・理学療法士と岡山大学から転入院となる患者さんについての情報や、転入院された患者さんの近況を伝え合うことで患者理解を深めることができました。「看－看連携」の構築は、病院間が顔の見える関係となり、些細なことでも相談・連絡ができ、患者さんや看護師、多職種の安心に繋がっています。

そして、昨年は新型コロナウイルス感染拡大により、当たり前だった日常生活が変わり当院でも 4 月より軽症の透析患者さんを受け入れました。これからも、当院の役割である透析患者さんのために、職員全員が力を合わせて、お互いに助け合いながら、この危機的な状況に立ち向かい乗り越えていかなければならないと痛感しています。

本日、この栄誉に報いるためにも、笑顔を絶やさず専門職としての責務に努め、地域のみなさまに求められるよう努力していく所存でございます。今後も一層のご指導とご助力をいただきますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、創和会と研究所附属病院の益々の発展を祈念して、お礼の言葉とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

令和 3 年 5 月 12 日 永年勤続者代表 長尾 雅子



▲謝辞



▲表彰状・記念品授与

この人紹介 !!

河野 美奈先生をご紹介します！
4月から研究所附属病院に勤務されています。



Q 1. これまでの先生のことを教えてください

大学を卒業後、倉敷市の川崎医科大学附属病院で10年間勤務していました。入職当初は病棟担当医として経験を積み、急性期病院の病棟では感染症の入院が最も多く、時に重症の医療的ケア児の入院を担当することもありました。

2017年に長女を出産し、2018年からは病棟担当医から外来担当医に変わり、1日のうち半日は小児救急外来担当、残りの半日は発達相談や不登校の専門外来の担当になりました。その傍ら、CFST（こども家族サポートチーム）として育児不安から虐待疑いまで、「ちょっと心配な家族」の対応にあたっていました。この活動を通して、院内の多職種間だけでなく行政機関、福祉施設や保育園、学校など病院内外の連携に力を入れました。

2020年2月末からの新型コロナウイルス感染症流行に伴う全国一斉休校を境に、急性期感染症の患者さんの救急受診は大幅に減少しました。その代わりに、長引く頭痛や腹痛、めまいなどの心身症の患者さんの割合が増えました。症状が重く長期に登校できていない患者さんは入院で、比較的軽微な患者さんは外来で継続的に相談を受けました。空いている時間にできるだけ学校に電話連絡を行い、ケース会議を開いて支援方針の統一を行いました。このような地道な働きかけが実って、徐々に患者さんとお家族が元気を取り戻していく姿にやりがいを感じました。

ここ数年で、学校の先生やスクールカウンセラーの先生から登校に悩む患者さんを紹介いただけるようになり、病院だけでなく、地域全体の力を借りて診療させていただいているということを実感しています。

Q 2. 休日の過ごし方を教えてください

天気予報の仕事をしている夫と、3歳の長女と3人で天気のいい日は公園へ、天気の悪い日は家の中で工作をしたり絵を描いたりし休日を過ごしています。

新型コロナウイルス感染症の流行以前は、年に数回プロ野球観戦に行っていました。私はドラゴンズファン、夫は生粋のカープファンなので中日対広島戦の時は家の中に緊張が走ります。

Q 3. 今後の抱負について教えてください

様々なニーズを抱えた患者さんやご家族と、成長する喜びを分かち合えるような診療をしたいと思います。

まだまだ岡山市地域のことは不勉強なことが多いですが、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。
(インタビューアー 井上)



▲ご主人と娘さんとプロ野球観戦



▲娘さんと一緒にクッキー作り

緑のカーテン準備開始!!

しげい病院 医療支援部 係長 吉田 和明

毎年、省エネと ecoの一環として“緑のカーテン”を設置しています。4月の終わりから準備を始めています。緑のカーテンの設置準備が始まると「夏がくる」と思います。

まずは、たくさんのプランターを各設置場所に運びます。その数はなんと約 120 個。それに土もプランターに合わせて入れていくので、かなりの量になります。そして、約 300 の苗を植えていきます。

ゴールデンウィーク明けから、プランターに土を入れ、ネットを設置し苗を植えていきます。その作業が 1 週間から 10 日間程度かかります。一番大きなカーテンは、横 12 m、高さ 5 m にもな

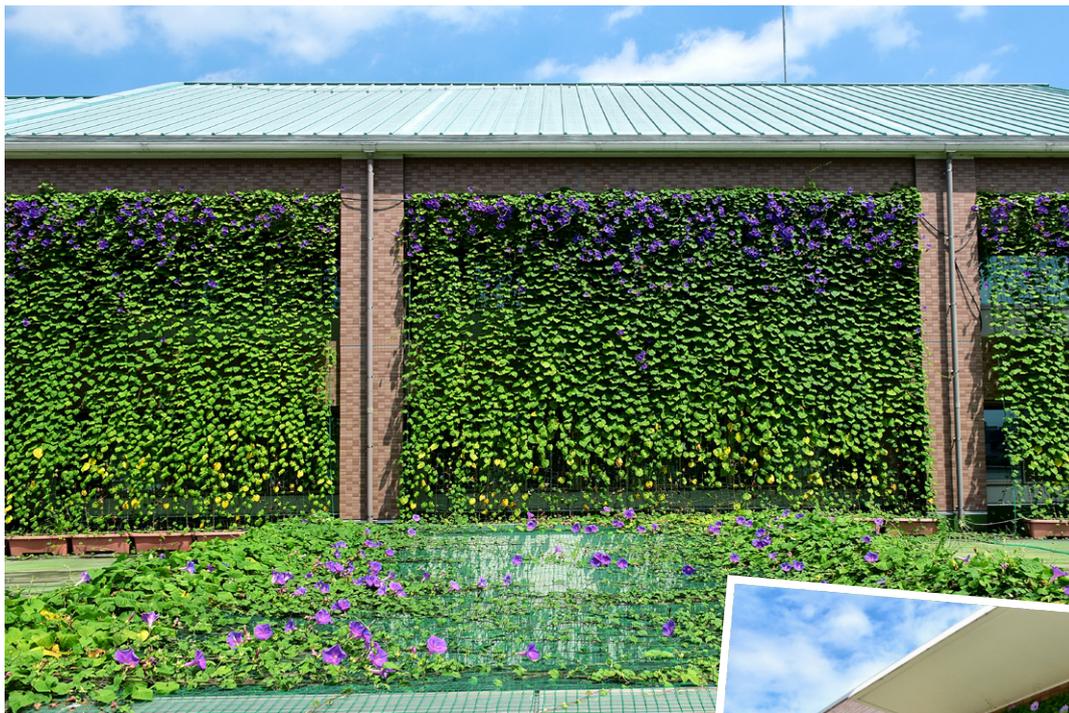


▲工務係の安藤さんと長谷川さんが準備

ります。植えたあとも、ネットに弦を巻き付けたり、摘心を行ったりと管理が必要です。しげい病院では工務係の 2 名が、適切に管理し、大きな緑のカーテンになっています。昨年は、倉敷市の「緑のカーテンコンテスト」に応募して“最優秀賞”をいただきました。

今年の夏は例年に比べて暑くなるらしい（毎年言われているような感じ）ですが、入院患者さんが緑のカーテンを見て涼しさを感じ、少しでも気を紛らわせていただければ幸いです。

今年は自宅にも設置してみようかな…やっぱりやめとこ (-_-)



▲昨年最優秀賞をいただいた緑のカーテン。
今年も大きな緑のカーテンになりますように!!



▲設置途中の今年の苗



2022年度新卒の事務職募集に伴い、WEB 懇談会を行いました

研究所附属病院 事務部 医事課 小林 由依
研究所附属病院 事務部 医事課 安井 遥

4月27日(火)・5月1日(土)の2日間、事務職員によるWEB懇談会を実施しました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、昨年に引き続き今年もZOOMを利用したWEBでの開催でしたが、4月27日は9名、5月1日は11名の参加申し込みをいただきました。

両日とも2回に分けて開催し、1回4～6名のグループに対し、こちらからは20年目職員・参加学生と同じ学校の卒業生・私たち2年目職員で、約30分間対応し、事前にいただいた質問への回答や、2年目職員として1年間働いてみての感想などをお話ししました。質問の中には、自分が学生の頃に聞きたかった内容も多数あり、就職活動時代が思い出されました。

私たちの時は気になる病院の見学会や説明会に参加して、自分に合った病院を見つけることができたのですが、コロナ禍の今はそう簡単にはいかず、思うような就職活動も難しいと思います。

WEBでの懇談会は、直接対面している訳でもなく限られた時間の中であるため、中々全体の雰囲気を感じていただくことは難しいとは思いますが、分かる範囲でお答えをし、皆さん相槌や返事をくださり、とてもいい雰囲気で行うことができました。病院に対する疑問や不安を取り除き、事務部の仕事や魅力について少しでも伝わっていたら嬉しく思います。

開催後には、お礼のメールをいただいたり、個人で見学に来てくださり実際に応募していただいたりと、とても意味がある懇談会になったと実感しています。また、私たちも入職して1年が経過し、その振り返りができ、とてもいい機会になりました。

来年度は、このコロナ禍が落ち着いて、院内での説明会が開催でき、学生さんが就職活動をしやすい世の中になっていることを願っています。

来年度は、このコロナ禍が落ち着いて、院内での説明会が開催でき、学生さんが就職活動をしやすい世の中になっていることを願っています。

来年度は、このコロナ禍が落ち着いて、院内での説明会が開催でき、学生さんが就職活動をしやすい世の中になっていることを願っています。



▲WEB懇談会で事務部の仕事や魅力を伝えられるよう頑張りました

「すき家」から「プレミアム Sukipass (すきパス)」をいただきました！

研究所附属病院 事務部 企画課 栗原 玲音

全日本病院協会を通して、皆さんも良く知っている牛丼チェーン店「すき家」から「プレミアム Sukipass (すきパス)」をいただきました。

この「プレミアム Sukipass」は、全国の「すき家」全店舗で5月31日までの間、会計時にカードを見せると全てのメイン商品を70円引きで購入でき、店内飲食だけでなく、テイクアウトをする際にも利用可能なカードでした。



早速、私も購入しに行ってみました。「プレミアム Sukipass」を店員さんに確認していただく、初めて見られたようで凄く驚かれましたが「いつもお疲れさまです！」とだけ言っていただけてなんだかとても温かい気持ちになりました。

大変な状況が続いていますが、色々な場面で皆で支え合い、周りに感謝しながらこれからも頑張っていきたいと思っております。



▲「プレミアム Sukipass」

雨水タンク絶賛活躍中!!

しげい病院 通所・訪問リハビリテーション部 谷口 由加理

昨年11月、リハビリテラスと通所リハビリ畑横に雨水タンクが設置され、初めての梅雨を迎えました。

■雨水タンクって何?!

雨どいから流れてくる雨の水を溜めることのできるタンクです。蛇口が付いており、そこから水を出して使います。120リットルの雨水を貯留することができ、主に入院患者さまや通所リハビリの利用者さまの園芸療法に使用しています。

水道水の使用量を減らすことで、しげい病院の目的としている“CO₂使用量の削減”になり、また災害時には雑水として使用でき、資源の有効活

用につながっています。

利用者さまからは「エコじゃなあ」「最近雨が降ってないけど結構溜まってるんじゃなあ」と関心を持たれています。“長雨になるとタンクの水はどうなるんだろう?”と気になり、雨の翌日はタンクのふたを開けて「水が増えてる×2」とほくそ笑んでいます。

レジ袋の有料化がスタートして1年が経とうとしています。環境に優しい取り組みを個人でも考える良い機会になればと思います。



▲溜まった水は蛇口から出し、園芸療法などに使用

健康増進施設 はあもにい倉敷通信

優良防火管理者として表彰されました

はあもにい倉敷 チーフ 竹井 優太郎

この度、倉敷市防火協会 倉敷支部長より優良防火管理者として表彰されました。

防火管理者とは、建物などの「火災等による被害」を防止するため、防火管理上必要な業務を計画的に行う責任者をいいます。(一般財団法人日本防火・防災協会)

日頃から、定期的な消防用設備等点検・結果報告・対応などを適切に行い、年2回(9月と3月)行っている消防訓練にも力を入れてきました。そして、優良防火管理者の基準とされる「防火管理者として満3年以上実務に従事し、特に優秀と認められるもの」に認めていただき、今回表彰を受けました。

事業所が約500ある中で表彰された3名のうちの1人ということで、とても名誉あることと思っております。

今後もご利用者さま・職員の安全のために、防火管理を適正に行っていくよう勉強していきます。



▲通常は、年1回倉敷消防署内で行われる合同表彰会で表彰されるのですが、コロナ禍ということで、消防署の方が表彰者のところに出向いてくださり、表彰状をお渡しくださいました。

はあもにい倉敷は医療法人創和会グループの健康増進施設です。

「異文化コミュニケーションを楽しみましょう」

ジャパン EAP システムズ EAP 相談室

職場では様々な出会いと別れがあるかと思えます。そして、周りのメンバーが変わると、職場の雰囲気も変わることを実感する方も多いだろうと思います。また、東京オリンピックが近づき、外国の方が訪れる機会もさらに増えていくことが予想されます。職場でも私生活でも、自分と異なる文化的背景をもつ方と接すると、戸惑われることもあるかと思えます。そもそも、私たち「日本人」はどのような特徴があると思われるのでしょうか。以下がご自身にどれくらい当てはまるか、ぜひ、考えてみてください。

■時間に対する認識

日本では、時間厳守のルールを破ることは、時に信用問題に関わります。一方、諸外国では6～7分の遅れは「時間通り」と捉える国もあれば、「渋滞や家の雑事に手間取るのは人生で不可避であるため、(30分以上でも)遅れはあり得ること」と考えられている文化もあります。

■上司・部下関係に対する認識

世界には、権力格差が低い平等主義と権力格差が高い階層主義の二軸が存在しています。階層主義的な日本では、肩書が重要で、序列に沿ってコミュニケーションをとりますが、平等主義の文化圏では、組織がフラットで、上司と部下がファーストネームで会話を交わし、上司の了承を得ずに行動に移すことが自然です。

■相手に伝える言葉に対する意識

日本では「空気を読む」という言葉が使われますが、移民も少なく、ほぼ同一民族で文化的背景を共有している日本では、会話の内容だけではなく、共通の認識や会話の背景などから、言葉以外の情報を推し測り、意思疎通を行う

傾向があります。一方で、様々な人種・言葉・文化が混在している国では、認識や背景が異なる為、言葉によって明快で細かな説明を行うコミュニケーションが効果的だとされています。

上記は、「日本人」の特徴のほんの一部でしかなく、また、同じ「日本人」でも、私たち一人ひとりを見ると、上記には当てはまらない様々な価値観を持っているものだと思います。そのため、「文化的背景の違い」とは、外国の方に限らず、世代間や転職の際に感じることも多く、仕事の効率化に与える影響は大きいかと思えます。言語が通じることや言葉選びも大切ですが、それ以上に、自分と相手の価値観や働き方の違いについて話し合うことが職場の雰囲気を良くする助けになるかと思えます。職場の方と「もっとコミュニケーションをとっていききたいけれど、思うようにいかない」と感じている方は、ぜひ、EAPのカウンセラーも一緒に考えさせていただければと思っております。

参考文献

- ・株式会社イマジンネクスト, 2015, 「同僚は外国人～行動の裏にある「なぜ?」を知る～」, 株式会社イマジンネクスト
- ・エリン・メイヤー, 2015, 「異文化理解力 相手と自分の真意がわかるビジネスパーソン必須の教養」, 英治出版株式会社

※医療法人創和会は職員の心の相談窓口として、ジャパン EAP システムズと契約しています。相談はお気軽に、電話やメールで。

催し物案内

重井薬用植物園

植物園を楽しむ会

「連珠と鈴の柿色を楽しむ」

日時：6月20日(日)
10:00～12:00
会場：重井薬用植物園



編集後記

●今年度編集委員を務めさせていただくことになりました。編集の仕事は初めてで私に務まるかどうか心配ですが、少しでも皆さんに楽しんでいただけるよう頑張ろうと思っています。プライベートでは7歳・5歳・3歳の3児の母として慌ただしい日々を送っています。子供が産まれる前はトリアスロンを少々嗜んでいたのですが、今は全く運動ができておらず1km走れるかどうかも怪しい有り様です。現在は育休中で子供と一緒に走れるようになったら再開したいと考えています。その時のために、これ以上の体力低下は防ぎたいところです。何か良いトレーニング方法などご存知の方がいらっしゃいましたらぜひ教えてください。それでは1年間よろしくお願いたします。(AR)

●毎年日付が変わる母の日。お店の母の日コーナーやテレビをみて「母の日っていつだったけ?」となってしまう。紅茶や小物、美容グッズなどいろいろ考えましたが、結局今年もカーネーションを送りました。定番ですがカーネーションにもいろんな種類や色があって選ぶのが楽しいです。お花が大好きなお母さんなので「この色良いね。可愛い名前だね。さっそくお部屋に飾ったよ。ありがとう」と報告がきました。お母さんが喜びそうなプレゼントはすぐに思いつきますが、お父さんへのプレゼントは常に悩みます。もうすぐ父の日ですが、何を贈ろうかなーと考える日々です。(MY)



生きることの尊さと健康であることの幸せを、すべての人と共に



しげい病院

〒710-0051 倉敷市幸町2-30
TEL086(422)3655 FAX086(421)1991

岡山しげい訪問看護ステーション

岡山しげい居宅介護支援事業所
〒701-0202 岡山市南区山田2117
TEL086(282)4300 FAX086(282)4301

重井医学研究所附属病院

〒707-0202 岡山市南区山田2117
TEL086(282)5311 FAX086(282)5345

倉敷しげい訪問看護ステーション

倉敷しげい居宅介護支援事業所
〒710-0051 倉敷市幸町2-30
TEL086(422)8111 FAX086(421)1991

重井薬用植物園

〒710-0007 倉敷市浅原20
TEL086(423)2396

重井医学研究所

〒707-0202 岡山市南区山田2117
TEL086(282)3113 FAX086(282)3115

倉敷昆虫館

〒710-0051 倉敷市幸町2-30
TEL086(422)8207